

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
和歌山YMCA 国際福祉専門学校	平成8年2月28日	井之上 芳雄	〒640-8323 和歌山県和歌山市太田一丁目12番13号 (電話) 073-473-3338			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 和歌山ササキ教育青年会	平成8年2月28日	理事長 永井 康雅	〒640-8323 和歌山県和歌山市太田一丁目12番13号 (電話) 073-473-3338			
目 的	教育基本法及び学校教育法に従い、教育の多様化が進む中で、社会福祉と医療福祉分野における専門的な知識と現場実習を体験した指導者の養成を図ることを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
教育・ 社会福祉	福祉専門	介護福祉士科	2年(昼)	2,135単位時間 (又は単位)	平成9年文部科学 省告示第184号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	975単位時間 (又は単位)	510単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	650単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	48人	3人	17人	20人		
学期制度	■前期：4月1日～8月31日 ■後期：9月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有)・無) ■成績評価の基準・方法について 出席状況、授業態度、試験結果を 総合的に評価し、6割以上の評価 で単位を認定する。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月11日～8月24日 ■冬 季：12月24日～1月4日 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	(進級) 当該学年で修得すべきすべての 科目について単位の修得 (卒業) 修得すべきすべての科目につい て単位の修得が認定	
生徒指導	■クラス担任制 (有)・無) ■長期欠席者への指導等の対応 担任により定期的な連絡及び保護者 を含めた面談を実施する			課外活動	■課外活動の種類 福祉施設等のボランティアなど ■サークル活動 (有)・無)	

就職等の状況	■主な就職先、業界 医療、福祉業界 ■就職率※¹ 100% ■卒業者に占める就職者の割合※² 100% ■その他（任意） （平成25年度卒業者に関する平成26年4月時点の情報）	主な資格・検定 介護福祉士
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 3% 平成 24年 4月 1日在学者 69名（平成 24年 4月入学者を含む） 平成 25年 3月31日在学者 67名（平成 25年 3月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 進路変更、学習意欲減退、出席不良 ■中退防止のための取組 出席不良者に対し早期に面談等を実施し、個別の指導を行う 必要に応じて家庭との連携を図り、生活指導を徹底する	
ホームページ	URL: http://www.wakayamaymca.org/	

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

厚生労働省認可の介護福祉士養成施設として、指定カリキュラムとして示されている内容を網羅してカリキュラムとして編成する。さらに、卒業後、円滑に職業人として職務の遂行ができるよう、指定カリキュラムの範囲はもちろんその周辺知識においても必要に応じて学習に取り入れていく。

さらに職業現場で必要とされる知識・技術については、実際の福祉現場における人材の専門性や、新たに必要となる実務に関する知識・技術について、職業現場との連携を保ちつつ教育課程に反映させる。そのために、業界有識者や福祉施設の実務者等により組織され、年間2回実施する教育課程編成委員会での意見交換を積極的に活用し、学校独自の教育課程を編成するものとする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年10月24日現在

名前	所属
井之上 芳雄	和歌山YMCA国際福祉専門学校 校長
村上 徳光	和歌山YMCA国際福祉専門学校 副校長
嶋田 直美	和歌山YMCA国際福祉専門学校 介護福祉士科 主任教員
宮下 和崇	有限会社 あやめ 代表取締役
井端 智子	一般社団法人 和歌山県介護福祉士会 副会長

任期は、平成26年10月1日～平成27年3月31日とする。

(開催日時)

第1回 平成26年10月6日 16:00～17:30

第2回 平成26年10月20日 16:30～18:00

第3回 平成27年1月14日 17:00～18:30 (予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

実践的専門性を身につけ、自己を援助的に用いることができるためには、特別な教育・訓練により基礎的な知識や技術、心構えを学ぶことが必要である。そのために、学内での講義と演習により、介護福祉士に求められる専門的な知識と技術、専門的実践援助職としての倫理観を身につけると同時に、それを様々な福祉場面で行われる個別ケアの観点から、実践の中で検証し、評価し、自己課題を発見し修正する場として、職業現場での実習を不可欠な学習と位置付ける。学校で学んだ知識と技術を実習先で実践することにより、現場での即戦力となるプロの介護福祉士を目指す。

科目名	科目概要	連携企業等
施設介護実習	1年次：学内で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている介護の需要に関する理解力、判断力を養う。 2年次：利用者の生活のニーズを理解し、適切な介護を展開する能力を養うとともに、自己の介護福祉観を深める。	介護老人福祉施設等

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教職員研修規程に基づき、教員は専門科目の実務に関する知識・技術、その教授方法について、また多様化する学生への指導などに対する研鑽を深めるために、定期的及び継続的に研修・研究の機会を持つ。専門科目は日進月歩で変化、進化している現代では、常に研修等を通して新しい情報を収集し、職業現場をめざす学生に、時事に沿った適切な授業内容を提供することが必要である。実際に職業現場において求められる人物像を正しく理解するために現場を実際に訪問し、生きた情報を指導者が得る機会を持ち、授業の改善に役立てるものとする。

また、自らテーマを持ち、研究をすることにより、疑問や関心事を明らかにすることは教育現場を預か

る教員として当然の態度であり、それを学校として支援することは理念を掲げる専門教育を行っている学校として極めて重要である。特に、現場の声が学べる現場担当者や有識者の講演会等が含まれる学会や、和歌山県介護福祉士会等が実施する研修などは、指導者同士の情報交換等により授業力向上につながることから、積極的な参加を勧める。

近年特に多様化し、学生間にも学力に大きな開きが見られるようになった。教員の指導力には今後ますます柔軟性が求められることから、専門分野に限らない、様々な対象者への講義・指導をも学校として研修と位置付け、学生対応や授業展開の改善に役立てるものとする。教職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その他その遂行に必要な能力、資質等を向上させるために実施することを基本とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 26 年 4 月 1 日現在

名 前	所 属
上野山 智也	介護老人保健施設 光苑 支援相談員 (本校介護福祉士科卒業生)
土橋 哲	訪問介護タンドムケアネットワーク 代表者 (地域支援者)
廣谷 知秀	有限会社 河西メディカルサービス 所長 (企業関係者)
松本 光生	介護老人保健施設パインドーム 指導主任 (本校介護福祉士科卒業生)
山本 哲司	松鶴野崎貳番館 統括部長 (本校介護福祉士科在校生保護者)
井之上 芳雄	和歌山YMCA国際福祉専門学校 校長
村上 徳光	和歌山YMCA国際福祉専門学校 副校長

任期は、平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日とする。

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.wakayamaymca.org/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.wakayamaymca.org/>

授業科目等の概要

(福祉専門課程介護福祉士科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			介護の基本	介護を必要としている人の生活支援の視点について学び、その人らしい生活を支援する専門職としての基本となる考え方や姿勢を身につける。	1通	60	4	○	○	
○			介護概論	介護福祉士の資格や役割および専門職としての職業倫理を理解したうえで、利用者の尊厳ある暮らしを支援するためにどのような専門的知識・技術が用いられるのか具体的方法を学び、介護の理論と実践の融合を目指す。	2通	120	8	○	○	
○			コミュニケーション技術	利用者の身体状況や心理的状況を把握し、価値観、人間関係、地域とのかかわりなどその人の生活を様々な視点から捉えて、介護を必要とする人に対し適切なコミュニケーションが行えるようコミュニケーション能力を身につける。また利用者や家族及び他職種協働におけるコミュニケーションの必要性について学び理解する。	1通	60	4	○	○	△
○			点字	視覚障害の特性の把握と理解を深める。点字についての正しい知識と基礎的な技能を習得する。	2前	15	1	○	○	
○			手話	聴覚障害者との正しいコミュニケーション方法を習得する。テキストに従い、自己紹介、簡単な日常会話程度の手話を覚える。耳の聞こえの仕組み等、聴覚障害に関連することの理解。	2後	15	1	○	○	
○			生活支援技術Ⅰ（調理）	家事支援の意義・目的を理解する。調理に関する基礎知識・技術を学び、調理方法・進め方を習得する。実際に利用者への援助ができるように調理上の工夫やさまざまな方法を考察し理解する。	1前	15	1	○	○	○
○			生活支援技術Ⅰ（被服）	介護福祉に関連した被服学の基礎を学び、高齢者や障害者の衣生活における適切な生活支援能力を身につけることを目的とします。高齢者や障害者の日常生活行動（衣生活行動）を理解した上で、衣生活においてどういふことに気をつけなければならないか、また、どういふことが重要なのかを、被服学の基礎と関連づけて学んでいきます。	1後	15	1	○	○	○
○			居住環境の理解	居宅や施設の生活環境を理解し、個々の生活場面における支援技術を修得する。	1後	30	2	○		
○			介護実技Ⅰ	生活支援の意味を理解し、その人らしく生きるための環境づくりや自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを理解する。また、一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、あらゆる介護場面において習得した知識や技術を適切に実施できる。また、個性を学び個別に応じた介護技術を習得する。	1通	120	8	○	○	○
合計				9 科目		450 単位時間 (30 単位)				

授業科目等の概要

(福祉専門課程介護福祉士科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			介護実技Ⅱ	排泄行為の意味を理解し、精神的・身体的負担の少ない介護技術を学ぶ。睡眠のしくみを理解し、安眠を図るための援助を学ぶ。終末期における介護福祉士の役割を理解する。	2通	60	4	○	○	○
○			形態別介護術	障害の特性を学習し、個別性を学び理解すると共にその特性に応じた介護技術を習得する。	2通	60	4	○	○	△
○			介護過程Ⅰ	介護過程の意義および理論を理解し、実体験と関連づけながら介護過程展開の基礎能力を身につける。	1後	30	2	○	○	
○			介護過程Ⅱ	介護過程は、個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。また、利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決していくために必要な介護のあり方を個別に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを演習を通して実践力を身につける。	2	120	8	○	○	
○			実習指導Ⅰ	介護実習の意義と目的を理解し、他の科目で学習した内容を結びつけ、生活を支援するための介護技術の展開を確認する。	1	60	4	○	○	○
○			実習指導Ⅱ	利用者の日常生活・精神状態を理解し、生きる意味をとらえながら、その人らしい生活を支援し続ける介護について学ぶ。また、利用者一人ひとりの理解とその人に応じた生活支援を通して学ぶことにより、介護の機能、役割について幅広くとらえることができ、身体の状態や生活についてのアセスメントを活用して個々の利用者の介護の必要性の判断、計画立案、実践・評価という介護の展開過程を体系的に学ぶ。	2	60	4	○	○	○
○			施設介護実習	福祉施設にて、実際の介護の現状および他職種の役割に関して、また他職種との連携等について学ぶ。	1.2	650	43			○
○			発達と老化の理解	「老化」に対する理解を得て、利用者さんの人生の質を保つ為の介護を考えられるようになる。	1	60	4	○		
○			認知症の理解	医学的側面からみた認知症が理解でき、説明できる。認知症の人の特徴的な心理・行動について説明できる。上記を踏まえ、認知症利用者の介護視点について考えることができる。	1	60	4	○		
合計			9 科目		1,160 単位時間 (77 単位)					

授業科目等の概要

(福祉専門課程介護福祉士科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			障害の理解	障がいやそれを持つ方を理解するため、基本理念～疾病までを学習する。臨床実践上において、具体的に理解して頂きたい事柄については、必要な実技・グループワークなども取り入れる。通年を通し、臨床現場での自己の創造力や価値観を発揮できるようになる。	1通	60	4	○		
○			医学概論	介護現場で役立つ医学一般の知識を身につける。	1通	30	2	○	○	
○			こころとからだのしくみ	個体の中で心と体は不可分である。同時に環境と個体は不可分である。形態(解剖)学、機能(生理)学、生化学を一連のものとして学ぶことにより、自分の体内で起こることを理解できる。それを敷衍し、医療者としての能力の根幹を成す、他人に起こっている現象に対する想像力を養う。最終的には、普段から明確な死生観を持ち、かつ己の考えを誤解されない文章を作れるようになる。	2通	90	6	○		
○			医療的ケア(講義)	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識と技術を修得する。	2通	90	6	○		
○			医療的ケア(演習)	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識と技術を修得する。	2後	30	2		○	○
○			人間の尊厳と自立	対人援助の実践に必要な人間理解を深める。介護実践において何故、人間の尊厳が大切なのかについて学ぶ。介護実践において大切な「人を大切にする」意識を高める。	1後	30	2	○		
○			社会福祉援助技術	介護実践の場においてもソーシャルワークの視点をもつことは重要である。相談援助とは何か、相談援助の基礎的な理解を学ぶ。	1通	30	2	○	○	
○			社会保障論	介護サービスを提供する上で必要な行政施策の仕組みや法体系を理解する。社会を構成する家族、地域の機能変化と社会制度の関係を理解する。私たちの生活を支える施策、法制度を理解する。	2前	30	2	○		
○			社会の理解	介護福祉士として職務を遂行する際に必要となる、サービス利用主体である人の生活や社会背景を理解し、法制度等についての仕組みについて習得する。	1通	15	1	○		
合計					9 科目	405 単位時間 (27 単位)				

授業科目等の概要

(福祉専門課程介護福祉士科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			キリスト教概論	聖書およびキリスト教精神に基づいて、全人格の成長と他の人への責任を学ぶ。	1前	30	2	○	○	
○			人間形成論	人間教育・自己啓発・脳思考変革・心理学・マナー学を通して志や夢を持ち、実現に向かう次元の高い人間性(真の人間形成)を養う。固定概念の脱却、脳思考変革トレーニング、コミュニケーションワーク、真のおもてなし(ホスピタリティ)、基本マナーの実技を通して、自分の無限の能力の可能性を見出す。	1前	15	1	○	○	
○			心理学	心理学の基礎知識を習得する 人や社会の理解のために心理学の考え方を学び、対人支援において他者理解を深める助けとし、社会福祉現場等での対処法に役立てる。	2後	15	1	○	○	
○			音楽表現	音楽という手段を用いたレクリエーション財の活用法を学ぶ。	1後	30	2	○		○
○			障害者海洋活動支援概論	障がい者・高齢者が、安全に安心して毎日の生活そしてできれば海や自然を楽しむためにも、それを全面的に支援する人々の育成が不可欠です。支援する人々は、障がい者や高齢者が抱える問題や状況に対する認識をしっかりと持ち、生理学や心理学や社会学そして指導法学などの学際的な知識を身につけながら、実践的な演習プログラムを通して、活動を支援する方法や技術を徹底的な安全意識に根ざして習得します。	1前	30	2	○	○	△
合計					5 科目	120 単位時間 (8 単位)				